

授業科目名 (副題)	公衆栄養学		
担当者	林 宏一		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	公衆衛生機関(保健所等)に勤務経験のある教員が、地域における公衆衛生・公衆栄養活動の実務経験を活かした指導を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントする概念と理論を理解し、さらにわが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、それに対応した栄養政策への活用方法について学習します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。 ②公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。 ③科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。 ④わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>この科目は、自然科学である栄養学の一分野ですが、同時に、社会医学である公衆衛生学の中の主要な一分野でもあります。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>①毎回、小課題を提示するので、それぞれ指定する方法でレポートを提出すること。 ②全授業終了後、指定する課題についての試験を実施する。 成績評価の配分は、小課題レポート(60%)、試験(40%)である。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>①は採点終了後の授業時に全体的なコメントと解説を、②については採点結果に対する全体的なコメントを掲示することによって、フィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>栄養士のみならず、社会人として活躍するために有用な科目です。関心を持って受講することを希望します。</p>			

授業科目名 (副題)	公衆栄養学
担当者	林 宏一
<p>[授業計画]</p> <p>【対面授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動) 2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題を含む) 3. わが国の食事・食生活・食環境の変化 4. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度、日本人の食事摂取基準) 5. わが国の栄養政策②(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム) 6. わが国の栄養政策③(健康づくりのためのツール、健康日本21、特定健診・特定保健指導他) 7. 栄養疫学①(疫学の概要) 8. 栄養疫学②(食事調査方法の種類と特徴) 9. 公衆栄養マネジメント①(理論と代表的モデル) 10. 公衆栄養マネジメント②(PDCA) 11. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策 12. 食料安全保障と公衆栄養の役割 13. これからの公衆栄養学の展望と課題 14. 試験 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【食栄1-2】栄養と健康に関する専門知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験によって、評価する。</p> <p>【食栄1-3】食育の実践に必要な知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 試験によって、評価する。</p> <p>【食栄1-4】健康管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 試験によって、評価する。</p> <p>【食栄1-6】食と健康に関する研究を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 小課題レポートおよび試験によって、評価する。</p> <p>【食栄2-1】食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなす能力を身に付けている。 成績評価方法: 小課題レポートおよび試験によって、評価する。</p> <p>【食栄2-2】食と健康に関する課題を解決する能力や判断力を身に付けている。 成績評価方法: 小課題レポートおよび試験によって、評価する。</p> <p>【食栄2-4】専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることのできるプレゼンテーション能力を身に付けている。 成績評価方法: 小課題レポートによって、評価する。</p> <p>【食栄3-2】食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度および小課題レポートによって、評価する。</p> <p>【食栄3-5】食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度および小課題レポートによって、評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Nブックス六訂公衆栄養学』 著者名: 井上浩一編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0649-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『日本人の食事摂取基準(2020年版)』 著者名: 厚生労働省 出版社: 第一出版 (9.78E+12)</p>	